

愛知の中小ベア1割弱

企業の給与実態を調査する北見式賃金研究所（名古屋市西区）は、二〇一四年春闘の中小企業の賃上げ結果（速報）をまとめた。調査対象の愛知県内の中小企業三十四社のうち、賃金水準を底上げするベアスアップ（ベア）を実施したのは一割弱の三社にとどまり、定期昇給（定昇）のみが八割強の二十九社に上った。労働組合のない企業を中心に調査しており、大手業を中心に調査しており、大手と比べてベア波及の動きが鈍い実情が浮き彫りになった。調査対象の業種は、主に下請

民間調査 今春、大手より鈍く

けの自動車部品メーカーや、関連の機械工具の卸業など従業員三百人以下の中小企業。同研究所が調査した三十四社のうち、組合がある会社は二社だけだ。中小企業の賃上げでは、ベアと定昇をまとめて計算する場合が多く、同研究所は調査対象のうち、初任給の引き上げがあり、全従業員の八割超で初任給の昇給額以上の賃上げがある場合をベア分と見なした。ベアを実施した三社の従業員のうち、七割は千円未満で昨年並みの低い水準で推移した。連

合愛知が発表した今月十六日時点の中小傘下労組のベア獲得平均額は千二百四十六円だった。同研究所の北見昌朗所長（五五）は「景気回復の恩恵は、まだ地場の中小企業にまで浸透しているとはいえない」と指摘する。一方、対象企業のベアと定昇を合わせた賃上げ額の平均は、二十代男性社員が四千六百元、同四十代が三千元と、若年層に より手厚く配分されている。北見所長によると、自動車業界を中心に景気回復で県内の人材確保が難しくなっている現状を踏まえ、初任給を引き上げて人材確保に努める企業が増えたことが、若年重視の賃上げの背景にあるという。